

水面月

水泳部のクールな彼女が寝取られるまで

DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止





んッ…コーチッ

こんな場所で  
ダメだッ…

誰かが入って  
きたらッ

ギシッ

あゝ…悪いな霧沢

お前見てたら  
ムラムラが抑え  
きれなくなったわ

ギシッ

ご…ゴムも  
付けてな…

あッ!

ちゃんと外に  
射精するから  
安心しろって

ズッ  
ズッ  
ズッ

ブルッ





あゝ気持ちイイ♪

ていうかまんこ  
めっちゃ絡みついて  
くるんだけどw

あッ

10ッ

10ッ

10ッ

10ッ

10ッ

はッ

はッ

ズッ

ズッ

これ締めり良すぎて  
そっこう射精そうだわ

ま…まてッ  
中はダメだ！  
外に——ッ

はいはい  
わかってます  
よ…っとッ

んああッ

ズッ

ズッ

ズッ

ちゃんと抜いて  
やるからそっちも  
盛大にイキなよ

あッ

イケッ

ズッ

あッ

ほらいケッ

ズッ

10ッ

10ッ





まだまだ全然  
やり足りないけど

さすがに戻らないと  
怪しまれるよなあ

まあ続きは夜の  
楽しみに取っておくか

あ…それとちゃんと  
シャワー浴びて  
身体を洗っておきなよ

みお  
水濡ちゃん♡

はあ…

はー…

はー…

どうして…  
こんなことに

俺は先に戻ってるから  
後片付けはよろしくー

…いやこれは全て  
私自身が招いたこと

ギリッ…



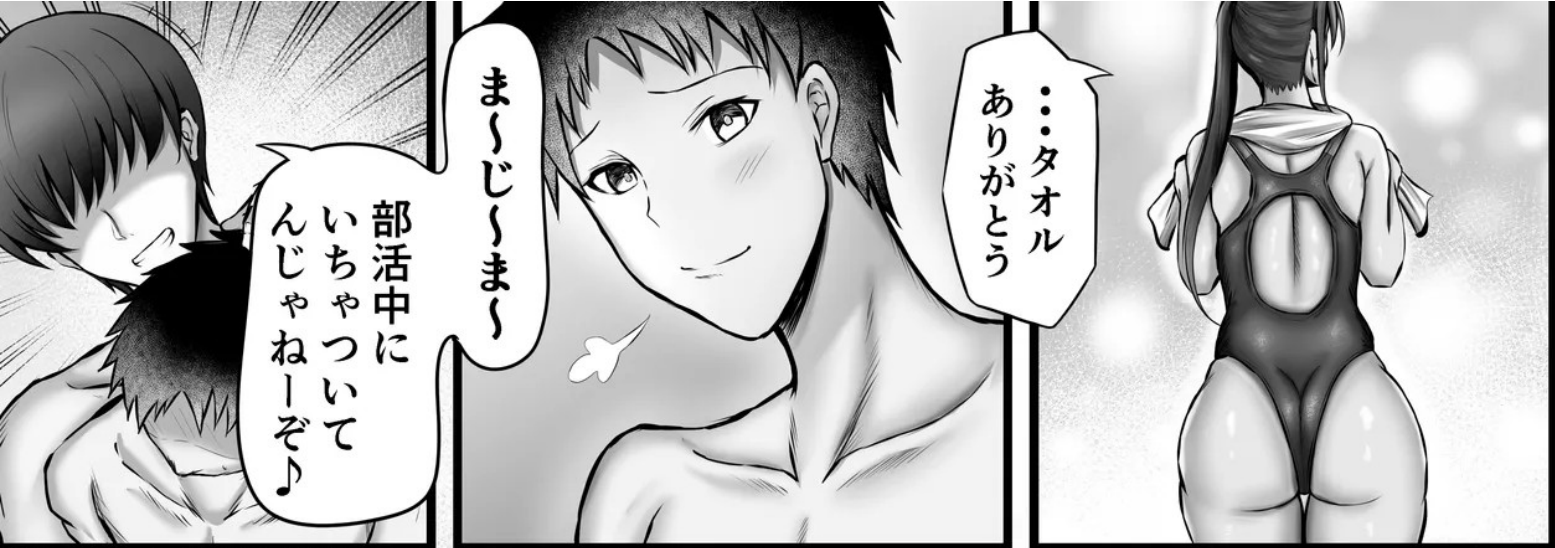
全てはあの日の  
過ちから――

――  
数日前











…ああ

霧沢先輩？  
まだ練習してた  
んですか？

…って



誰か残ってる？

ザッパッパッ

ん…？



霧沢先輩が言うとは  
冗談に聞こえない  
ですよ…って

どうかしました？

は？

…名前



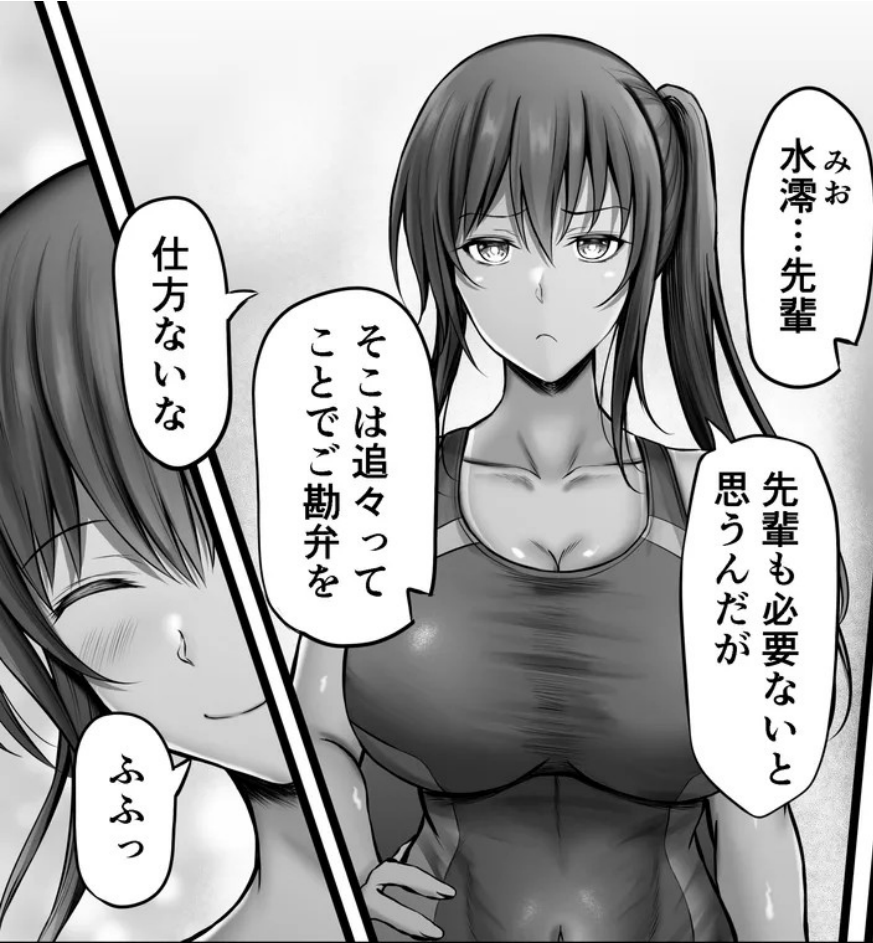
私のような氷の女は  
誰もいない時間の方が  
恐れられずに済むしな



ソレ言ったの  
俺じゃないですよ！

冗談だ

















すまないシユン  
私のせいだ…

さてここからが  
大事なところ  
なんだけど



この動画…  
見なかったことにして  
消去してもいいと  
言ったらどうする？



!?



ニヤ..



……



…条件はなんですか？

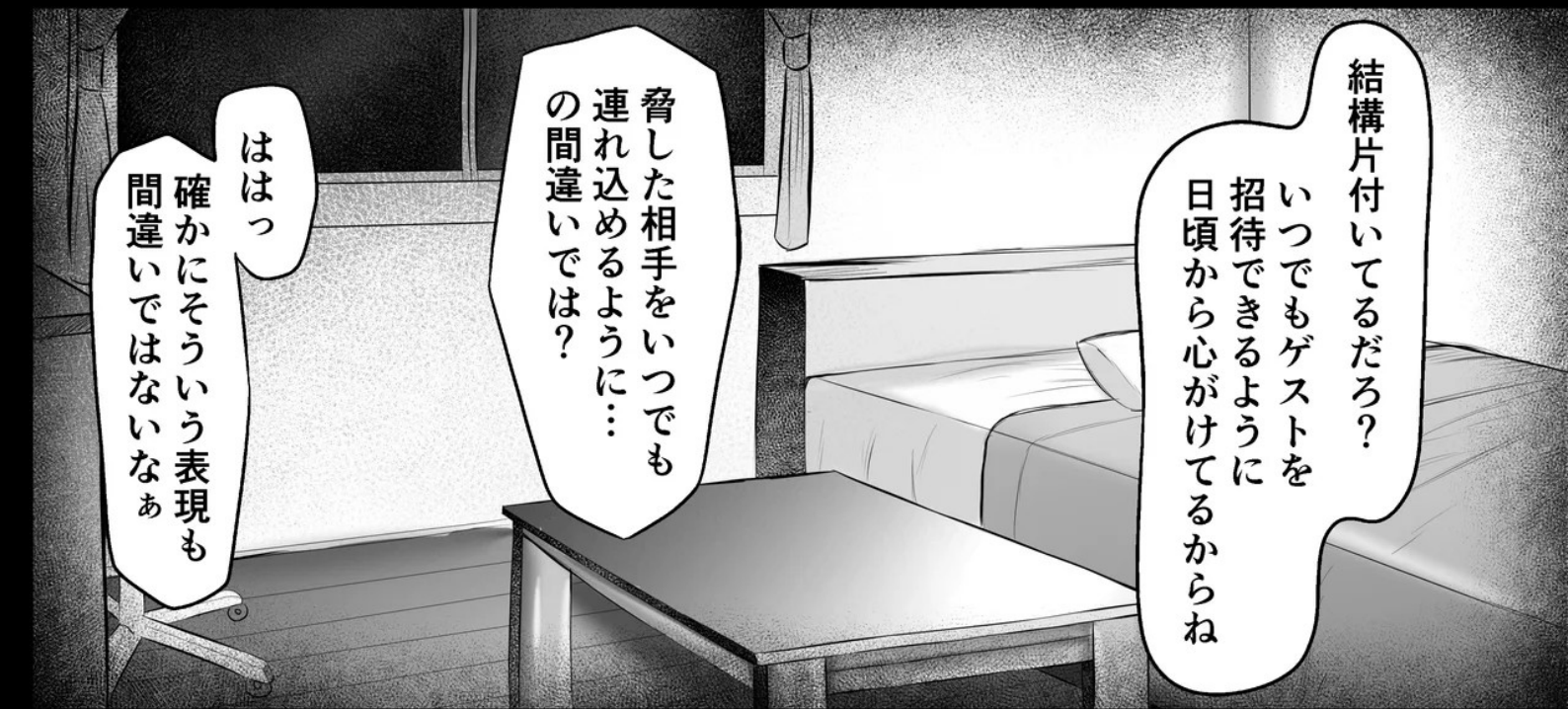
話が早くて助かるよ

まあ薄々察しは  
ついてると思うけど



コーチの出した条件は  
想像通りのゲスなものだった

ほら遠慮せずに  
あがりなよ



結構片付いてるだろ？

いつでもゲストを  
招待できるように  
日頃から心がけてるからね

脅した相手をいつでも  
連れ込めるように…  
の間違いでは？

ははっ

確かにそういう表現も  
間違いではないなあ



その物怖じしない  
性格はさすがだね

そんなことより  
約束は本当に  
守ってくれるんですか？

それはもちろん



夏休みまでの十日間…  
霧沢の身体を好きに  
させてくれたら  
動画は消去するし  
誰にも口外はしない

約束は守るさ

そもそもキミらの行為を  
騒ぎ立てても俺には  
なんの得もないわけだし  
約束を破る理由がないだろう？

…どうだか

やれやれ…本当に  
素っ気ないな

まあいいさ

ッ！

うっ…くっ

むにゅ♡

それよりさっそく  
始めようか

さすがに少しは緊張して  
くれてるみたいだね

スル。

スル。



それにしても  
本当にいやらしい  
身体をしているね

部活中いつも  
この身体を好きに  
したいと思って  
いたんでね



言いつけ通り  
ちゃんと水着を  
着てきたようだね



水着の上からでも  
わかるくらい  
硬くなってるし

んくうッ



んくくッ

へえ…感度は  
いいみたいだ  
これは責め甲斐が  
あるなあ…



なんだ…コレ

必死だねえ♪





自分でするのとも  
シユンに触られる  
のとも違う…ッ

くうっ…んんッ

そんなに無理して  
声を抑えなくても  
この部屋は防音だから  
隣や外には聞こえないよ？



うっ…うっ

まあ俺はぞんぶんに  
聴かせてもらうけど

くっッ！

グッッ♡



イクウツ!

んんんううッ!



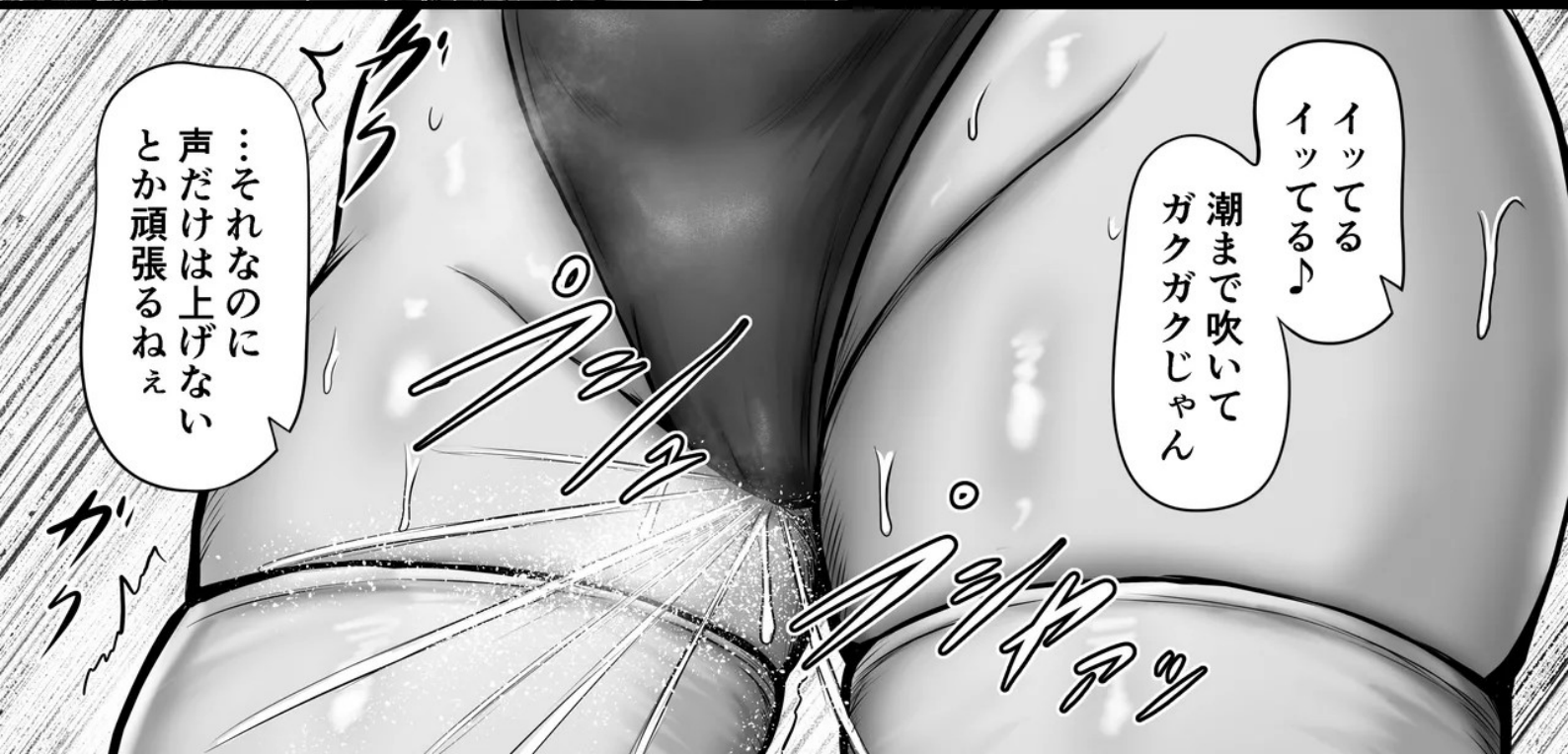
お...くるか?

あっ...くうッ...



ほらほら  
我慢は身体に  
毒だぞ〜♪

だっ...ダメだっ  
これ...きちやッ...



...それなのに  
声だけは上げない  
とか頑張るねえ

潮まで吹いて  
ガクガクじゃん





さて…と

それじゃあ次は  
こいつを気持ち良く  
してもらおうか

——え？



こんなに簡単に  
イカされるなんてッ



いきなり挿入れても  
いいんだけど…  
せっかくだし口で  
してもらおうかな

く…口で？



ちよつと…まて

なんだ…  
この大きさ



どうせ初めてって  
わけじゃないんだろう？

真島にしてる  
みたいにやって  
くれればいいよ

くっ…

ギュッ…

シュン以外のモノを  
舐めるなんて…  
だが今の私に  
拒否権なんて…





んっ…ちゅぴ…

はー

ちゃく

ちゃく

はー

れろっ…はあ…

へえ…真島のは  
そういう風に  
舐めてやってるのか

か…彼の名前を  
いちいち出すな



無駄口はいいから

舐めるだけじゃなくて  
啜えこみなよ

くっ…!



悪い悪い  
今は彼氏のちんぽ  
より目の前のちんぽに  
夢中なんだもんな♪

ふざけたこと…ッ





んんうッ

あぁ...いい感じだ

大きすぎて  
息がうまくできなッ...

このまま口の中に  
出すから...

しっかり搾り取ってよ

んぐッ!

射精るッ!

んぷうッ!

あゝ気持ちイイ...♪  
射精止まらないわ





それどころか…  
さっきより大きい!?

ま…まで

いまあんなに  
射精したばかりなのに  
どうしてもう…

モカ

は?

一回や二回射精した  
くらいで萎えるわけ  
ないじゃん

むしろウォーミングアップが  
終わってこれからって感じ?



すごい…量も濃さも  
シユンと全然違う…

ふう…  
よかったよ



さて…と

それじゃあ  
お互いに一回ずつ  
達したところで



そろそろ本番  
といこうか

なっ…!?



明日は休日で  
部活も休みだし

ビクッ

ググ

ググ

これかの十日間が  
どういう日々にな  
るのか知って  
もらうためにも

今夜は徹底的に  
やりまくるつもり  
だから覚悟しなよ

——シュンツ！

すまな……

…水滯先輩？

……！

お



知らないッ

こんなの知らないッ!



なんだこれッ

あっ...あぁッ



いいねえ  
その反応

はっ

初めてを  
味わえなかったのは  
残念だったけど

彼氏一途の純情まんこに  
未知の快感を教え込むのも  
嫌いじゃないから良しとするか!

あぁ...

んあぁっ...



こんな深い  
ところまで  
届くなんてッ

亀頭が子宮の  
入り口をぐつぐつ  
叩いてくるッ

いい声で啼く  
じゃないか  
真島としていた時よりも  
色っぽくないか?

あっ…はあッ

だ…ダメだ…  
声が抑えきれないッ

そんなわけ…

んうううッ!

い…イカされた  
こんなに  
あっさりと…

ッ!?

ズリユ〜。。



ま…まってッ  
いまイッて…

ひぐっ！

わかってるよ

でもこっちは  
まだイッてないから



く…癖になんかッ

この状況でまだ  
そんな口がきけるとか  
さすがに感服するよ



でもそれ自分で自分を  
追い詰めることに  
なるってわかってる？

んああッ！



あっあっああッ！

イキながらの  
ガン突きピストン  
癖になるだろ？

ばちや  
ゴボ





キミみたいな  
強気な女の子を  
服従させたいって  
男は山ほどいるからさ

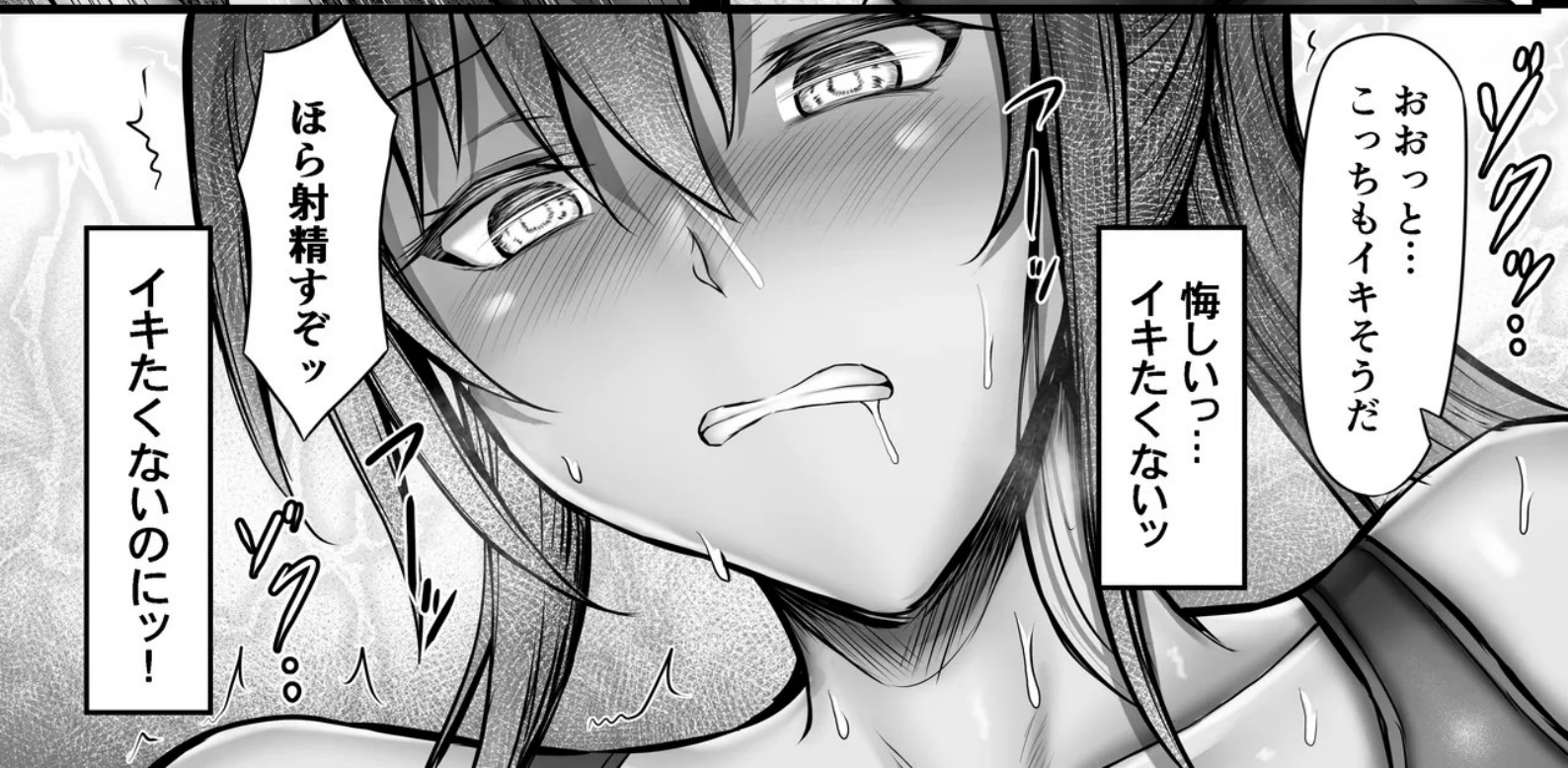
ま…俺もまさしく  
そのひとりなんだけど♪



感じたくないのに  
身体が気持ちいいって  
反応してしまうッ！



突かれるたびに  
快感が押し寄せてッ



おおっと…  
こっちもイキそうだ

悔しいっ…  
イキたくないッ

ほら射精すぞッ

イキたくないのにッ！

またイカされるっ！

あああッ

んあああッ！

射精すーいッ

ゴム越しでも勢いが  
ハッキリとわかるッ





その後も  
コーチは休むことなく  
私の膣内を犯し続けた

す…少し  
休ませ…

まったく萎えることなく  
張り詰め続ける怒張が  
膣内を貫くたびに  
抗いがたい快感が私の中に  
植え付けられていき…

何度も何度もイカされ続け  
気を失いそうになるたびに  
背筋を駆け抜ける強烈な  
刺激によって再び意識は  
現実へと呼び戻され…

もうずっと  
イッてるからあー！







イクイクツ

ビク

ハッ!

おッ

ビク

んおッ

ゾク

ビク

ゾク

ハッ

ハッ

盛大にさあ...



我慢せずにイキな

おッ

これが正真正銘  
今日最後の一発だ

イクツ...

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ブル

ブル



イッくううッ!

イッちまいなあ!

イッてるう!  
ずっとイカされてるう!

絶頂の余韻に  
震えながら  
ふと窓の外を見ると  
すでに空は  
白み始めていた

そこで私は  
本当に一晩中  
犯され続けていた  
のだと気付いた…



その問いかけに  
反論する気力すら  
残ってはいなかった

どうだい？  
最高に気持ち  
よかったら？

んんっ…

ああ…

今日のところは  
これで終わりに  
するけどさ

はあ…

はあ…

ふう…ヤッたヤッた

あっ

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん



約束の期日までは  
たっぷり時間があるし

まだまだキミの  
知らない快感を  
教え込んであげるから

楽しみにしてなよ？

薄れゆく意識の中で  
聞こえたその言葉に  
全身がブルッと震えた

それはこんな日々が  
まだ続くという恐怖……  
あるいは嫌悪だったに違いない



——それ以外の感情など  
あるはずがないのだから



発行日：2025年1月11日  
発行者：カンナ(サークル水面月)

この物語はフィクションです。  
18歳未満の購入、閲覧、所持を禁じます  
本作品の無断複写・転載・インターネットへの  
アップロード・AI学習を禁じます。

© 2025 カンナ



